

IMF世界経済見通しの下方修正

ポイント① 2020年の持ち直しを想定

7月23日に発表されたIMF（国際通貨基金）の世界経済見通しのアップデートによれば、2019年の世界の実質GDP（国内総生産）成長率は3.2%と4月時点の見通し（3.3%）から下方修正されました。一方、2020年の世界の実質GDP成長率は、4月時点の見通し（3.6%）から下方修正されたものの、3.5%とやや持ち直すと予想されています。

ポイント② 世界貿易見通しの下方修正

世界経済成長率の下方修正の主因は、世界貿易の鈍化にあるようです。図2が示すように、世界貿易量の成長率は2019年の見通しが大幅に下方修正されました。米国などの保護主義的な通商・経済政策が、世界貿易減速の一因とされています。

IMFは2020年の世界経済成長率の見通しは米中間などの貿易摩擦問題の解決を前提としており、問題が長引けば成長率見通しがさらに下方修正される可能性もあるようです。

ポイント③ 注目される各国の政策対応

米中貿易・経済交渉は、6月29日の米中首脳会談では米国の追加関税見送りと交渉再開で合意しており、今後の動向が注目されます。

景気減速懸念に対して、FRB（米連邦準備制度理事会）は7月30、31日のFOMC（米連邦公開市場委員会）で利下げを行なうと予想されています。他の主要中央銀行も全般的に金融緩和に傾きつつあるようです。中国では景気下支え策が金融・財政政策の両面から強化される可能性があります。米中交渉の進展や各国の政策対応により、世界経済が持ち直すかどうか注目されます。

図1：国・地域別実質GDP成長率見通し

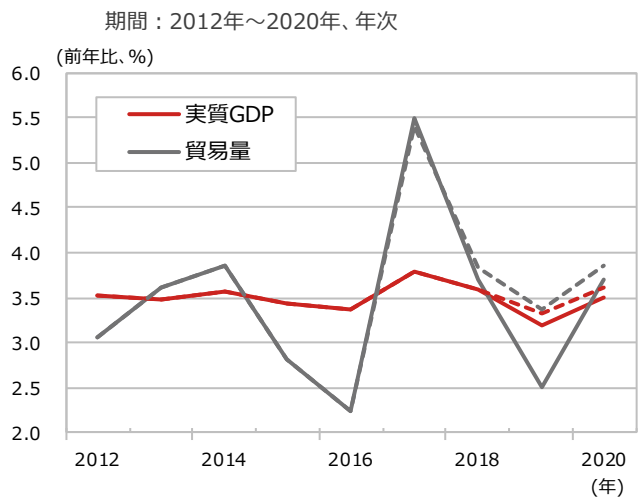
	2018	2019	2020
世界	3.6	3.2 (-0.1)	3.5 (-0.1)
先進国	2.2	1.9 (0.1)	1.7 (0.0)
米国	2.9	2.6 (0.3)	1.9 (0.0)
ユーロ圏	1.9	1.3 (0.0)	1.6 (0.1)
日本	0.8	0.9 (-0.1)	0.4 (-0.1)
新興・発展途上国	4.5	4.1 (-0.3)	4.7 (-0.1)
中国	6.6	6.2 (-0.1)	6.0 (-0.1)
インド	6.8	7.0 (-0.3)	7.2 (-0.3)

(注) 2019年以降はIMFによる見通し

(注) ()内は4月時点見通しからの修正幅

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

図2：世界の実質GDPと貿易量



(注) 2019年以降はIMFによる見通し

(注) 点線は4月時点の推計及び見通し

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

7月25日 ユーロ圏金融政策発表
7月26日 米GDP(4-6月期、速報値)
7月31日 米金融政策発表